

第55号

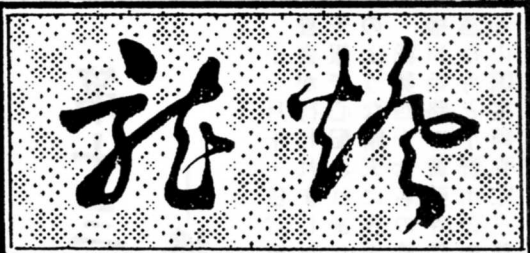
大阪市史跡 龍溪禪師墓所 雲屯山九島院

発行所

〒550-0022 大阪市西区本田3丁目4番18号  
TEL 06(6583)2725 FAX 06(6583)0908

発行者

第二十五世住職 奥田啓知(智證)



平成二十一年春 阪神なんば線開通

# 「空白の一日」から28年

## 負い目をバネに生きよう

あの「空白の一日」から二十八年、因縁の二人が初めて言葉

林さんを追い出す原因になった「空白の一日」に負い目を感じていた江川さんが、酒を酌み交わすうちに、二人のわだかまりが少しずつ溶けてくる様子が印象的でした。

「空白の一日」とは、昭和五十三年十一月二十一日、プロ野球ドラフト会議の前日、野球協

ドイツの実存主義哲学者のヤスベルスは、「負い目」を強調し、わたしたち人間は、誰もが他人に対して大きな「負い目」があると言っています。

約の不備をつけて江川卓投手が巨人軍と入団契約をしたものの無効となり、翌日のドラフト会議で阪神タイガースが江川投手

例えば、大学の入学試験にパスしたのは、試験に落ちた大勢の人間の無念さの上に自分の合格があり、彼らに対して「負い目」があり、結婚した男は、自分の妻と結婚したかった他の男性に「負い目」がある。われわれ人間は、他人への「負い目」を自覚せよと言っています。

一位指名し紛糾した事件です。事態の收拾のため、翌五十四年巨人からトレードで小林繁投手が阪神へ移籍し、江川投手が

そして、「負い目」を自覚しそれを償うべき責任を果たせと説いています。大学生は、落ちた人の分までしっかりと勉強し結婚した者は、自分の妻を他人の分まで愛することによって、「負い目」を償えるのだと。大きな事故で生き残った人が、死

を語り合い、酒を酌み交わしました。黄桜の新聞広告には、「一生話しをすることは無い、と思っていた」一度でいいから話したい、と思っていた」と見出しがおどりと、テレビのCMでは、巨人を愛しながらも去らざるをえなかった小林繁さんと小

潤滑材のお酒があったからとはいえ、二人が「空白の一日」を人生のテーマとして生きてこられたからこそ、見る人の心をひきつけるCMになったのではないでしようか。

んだ人の分まで、精一杯生きることで、その「負い目」を乗り越えることができたなど報告もあります。



江川 卓(えがわ・たくむる)

小林投手は、その「負い目」をバネとしてトレードの翌年には、因縁の巨人戦を8連勝して二十二勝を積み上げて沢村賞を受賞し、江川投手は巨人軍の大エースとして君臨、その後は野球解説者として大活躍しています。

# 第十三回修養会ご報告

## —播州路をめぐる—

十一月十一日、第十三回修養会が行われました。雨天の予報で心配されましたが、嘘のような晴天に恵まれました。総勢四十七名の善男善女が播州姫路の黄檗寺院の鶴棲山雲松寺と小野市の極楽山浄土寺の国宝阿弥陀三尊像をお参りました。

菓子博で賑わう姫路城の北東そばに雲松寺があります。山門をくぐり、黄檗宗独特の石畳の参道を通り本堂へ、玄関には住職の高島正昔老師、若住職と坊守さま方が出迎えて下さいました。

野市の浄土寺は、以前修養会で訪ねた伊賀上野の阿波大仏と姉妹仏で、どちらも東大寺再建の勸進職の重源上人が建てました。

富の訪問地の小次郎の浄土寺へ。老舗の割烹森で昼食を頂き、ナンを手にと散しました。

その風雅さを絶賛したもので、本堂前で記念写真をとりました。土産の老師真筆の短冊、お薬師さんの御札、境内の銀杏の大木からとれたギンナンを手に退散しました。

第二神明・阪神高速道路はスイスイと走れ、住職として一安心でした。お檀家のご主人が逝去され、午後七時より昨夜を控えていたのです。

### 年忌表 (平成20年)

回忌	死亡年	回忌	死亡年
1周忌	平成19年	17回忌	平成 4年
3回忌	平成18年	25回忌	昭和59年
7回忌	平成14年	33回忌	昭和51年
13回忌	平成 8年	50回忌	昭和34年

※土・日・祝日は他家と重なります。年忌法要のご予約は早い目に！お寺でもできます。

「竹楼」の記の中が、頼山の陽が、た名家老・河合寸翁に藩財政を建て直した。嘆この竹楼は、幕末一同その珍しさに感お抹茶の接待を受けて竹でできた茶室で「竹楼」という全きましました。

大寺再建の勸進職の重源上人が建てました。国宝の浄土堂は大仏様建築で一杯に、丈六の阿弥陀三尊像が屹立し、倒されも心経読経しました。

随分気が楽になりました。来年の行き先は未定ですが、奮ってご参加下さい。お一人の方も増えてきましたので。



平成二十一年春 阪神なんば線開通

# 九島院人物列伝⑤

## 大塚明之助と九島院

### — 本田に海運学館創設 —

当院山門横の住職墓地内に大きな石碑が建っています。明治四十二年九月建立の「大塚先生紀念碑」で、著名な泊園書院の漢学者の藤沢南岳が長文を撰んでいます。

大塚明之助は天保九年（一八三八）伊予生まれ、大洲藩士。二十九歳の時大志を抱いて江戸へ赴き、航海術を学んで海外に雄飛しようとし、明治維新の際測量士となり軍艦摂津丸に乗船して、国土の測量に当たりました。明治三年北海道に海運会社を創立すべく奔走しましたが、官許されませんでした。

六年、西船場国民学校の前身である江南小学校及び玉水小学校の算術教師となりました。海員試験規則が公布されると校務の余暇に航海法を生徒に授けましたが、明治十五年四月に本田三番町に私立航海学校を設立しました。

初めは小さな塾でしたが、海運界の隆盛もあって発展し、同二十年に「海運学館」と改称し、学ぶ者延べ二千数百名に達しました。当時古川橋西詰（富島の川口波止場）には大阪商船会社及び内海航路汽船会社などがあ



大塚先生紀念碑

往客の船で夜ごえがたが土産物が立



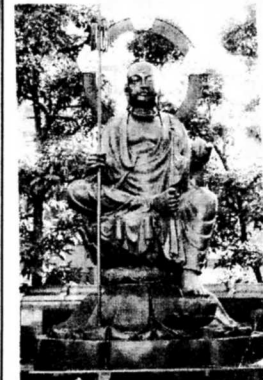
永代供養墓  
（大亀地藏尊永代供養墓）

お墓を建ててもいずれば無縁になるから、とのお考えの方の相談を受けてできた永代供養合祀墓です。

ち並んでいました。とりわけ大阪名物の粟おこしは大阪市第一の売り上げを誇り、地価や家賃は市中最高でした。富島町には、明治十一年創立の「商船学校」もあり、明治十四年には府立となり、当地は大阪における海洋に関する新知識を鼓吹する一大センターでした。

大塚明之助は気宇壮大、剛毅な人物で古武士の面影を宿す人物でした。明治三十六年（一九〇三）九月二十九日に六十五才を末期として没し、当院の過去帳に「海宝院輝雲明祐居士」と墨されています。七回忌の明治四十二年九月に門人たちが師恩に報いる為に建立したのが、「大塚先生紀念碑」なのです。

昨年（平成十八年）の盆に茨木市在住のお孫さん夫婦が偶然来院され、本家筋（男系子孫）のお孫さんは亡くなっておられましたが、曾孫の大塚慎一氏が北海道の北斗市に在住されておられることを知



◎ 継承者がいなくても安心  
◎ 無縁になる心配がない  
◎ お寺が続く限り供養され  
◎ 永代位牌が位牌堂に祀られ  
◎ 彼岸・お盆には大勢の僧侶で回向され  
◎ ご遺骨は大亀地藏尊の蓮台下で土に帰るよう埋葬され  
◎ 永代供養だけの方も  
◎ 生前に依頼もできる  
◎ 管理料は不要  
◎ 永代志納金一霊三十万円  
◎ 永代位牌は二種類。  
◎ 宗旨・宗派は問いません  
◎ お墓を整理して合祀される方もおられます

◎ 新規境内墓地（西区で当院だけ）も募集しています。お寺までお問い合わせ下さい。

九条から阪神三宮駅・近鉄奈良駅まで直通列車が走ります！

編集後記

▼広辞苑が十年ぶりに改訂されました。KY(空気の読めない)など、日々変わっていく日本語一万語が新収されました。「モンスターピアレント」もそのひとつです。

▼モンスター(怪物)にたとえられるほど理不尽なクレームを学校につける保護者のことで、社会問題化しています。

▼「集合写真の真ん中がなげうちの子じゃないの」「毎朝、母親の代わりに子供を起こしてほしい」等々、無理難題な要求をする親が増え、学校が困惑しているそうです。

▼「あの親にしてこの子あり」といいますが、ボクシングの「亀田騒動」をみても、親の役割とは何か、考えさせる出来事が続いています。

▼ベストセラーとなった『ホームレス中学生』の中で、お笑いコンビ「麒麟(きりん)」の田村裕さんが、家族の

解散を宣言して姿を消した父親のことを綴っています。

▼親の問題に限らず、朝青龍の一件での高砂親方の弟子に対する態度なども頭をかしげてしまっています。

▼仏教界でも、親子といえども師匠と弟子。親の背中を見て子は育つといいますが、決して模範となる師匠ではないなあと自己反省をする毎日です。

墓地管理費のご納付をお願いします。墓参の折り、郵便為替でも結構です。

● 気で気を養う

エアギターという競技があります。音楽に合わせるかのように弾きまねをするパフォーマンスですが、今年選の9月にフィンランドで開催された第12回世界選手権で、吉本興行所属のお笑いコンビ「ダイノジ」の大地(おおち)さんが、史上2人目となる2連覇を達成しました。

「貧乏花見」という落語も同じような噺です。貧乏長屋の住民が花見に繰り出した、人並みに酒やごちそうを持っていくわけにはいかない。それぞれの家にあるものを持っていくことにした。蒲鉾のかわりに、釜の底にへばりついたオコゲをカマゾコ。ソーメンは醤油、醤油は箸ではハソウメンという洒落。タクアンで作った玉子焼き等々、肝心のお酒も二番煎じのお酒ならぬお茶け。ぼやく男に「酒がなげりゃ行けんように思てるさかい大層なんや、徳利に茶つめて、茶か盛りと行かんかい、人間、気で気を養うんや」と諭す。

新聞記事で「エアディナー」という大会が載っていました。こちらは、何も料理が並んでいないテーブルに座って、まるで食べているように演じる姿を競う大会や、企画した都島区のNPO法人「風の会」では、「飽食の時代への戒め」というメッセージを込め、食べ物のおいしさを忘れている。演じることで『本当のおいしさ』を考え直してほしい」と開催したということでした。

ギターが弾けなくても、ごちそうがなくても、お金がないけれども、ちっとも悲観することはありません。落語のいう「気で気を養う」ことさえできれば、幸せになれるのです。

心の底から楽しんでこそ「気で気を養う」ことにはなるのです。やせ我慢とは根本的に違うのです。



お知らせ

◎のぼり奉納の募集 1旗金2千円

『南無観世音菩薩のぼり』を入れ替えます。1年間境内に掲げます。昨年同様お施主さんを募集いたします。為書きと施主名を墨書します。ご希望の方は寺務所まで、お声をかけてください。

九条から阪神三宮駅・近鉄奈良駅まで直通列車が走ります！